

令和6年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立東我孫子中学校
令和7年2月

大阪市教育振興基本計画における基本理念

全ての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立することをめざします。

あわせて、グローバル化が進展した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となることをめざします。

学校教育目標

主体的に学び、互いに尊重し合える生徒集団の育成

本校のめざす学校像

- ・個を認め、ともに高めあう集団の育成
- ・夢や志を高くもち、主体的に取り組む生徒の育成
- ・将来をたくましく生き抜く学力・体力・人間力を伸ばす教育活動の推進
- ・地域の中の一員としての成長を期待される学校

本校のめざす子ども像

- ・積極的に挨拶のできる生徒
- ・自ら学ぶ生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・最後まで粘り強く取り組む生徒



目標達成に向けた教育方針

1. すべての教育活動において、自他の人権尊重の精神を実践する態度を育てる。
2. 基礎学力の向上につとめ、教育活動の多様な創意工夫によって、主体的に学習する態度を育てる。
3. 障がいのある仲間との交流を通して、互いに違いを認め合い、支えあう集団を育成する。
4. 生徒理解を通して、生徒・教職員相互のふれあいと信頼を深める。
5. うるおいのある学校環境づくりにつとめる。

大阪市立東我孫子中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

全体的に落ち着いた状況の中で、授業、学校行事、部活動などの教育活動が着実に進められている。器物破損や暴力行為などはほとんど見られない。友だち間のトラブルが発生した場合も早期対応を心がけ、解決に導いている。生徒会活動では、清掃活動や挨拶運動にも積極的に取り組む様子が見られる。しかし、基本的生活習慣では、朝ごはんの喫食率がやや低く、家庭との連携をより重視しなければならない。また、不登校生徒や背景的な要因に課題のある生徒も年々増加傾向にあり、担任だけではなく学年を中心とした複数の教員が関わっているが、区のスクールソーシャルワーカーや関係諸機関とも連携したきめ細かい対応を進めていく必要がある。

学習面では、基礎基本の定着を重視するとともに、ICT機器等を活用したわかりやすい授業や班活動等を活用し、生徒が主体的に取り組む授業をめざしているが、よりいっそうの授業改善が求められるところである。

また、「チャレンジテスト」や3年生の「全国学力・学習状況調査」、「大阪市英語力調査」の結果を分析し、課題を全教員で共有することで、生徒の学力向上が期待できる。確かな学力の定着に向けて、生徒のやる気をより引き出す授業の創造、家庭学習や補充学習の充実を図る必要がある。

人権学習やキャリア教育等の取り組みでは、違いを認め合い、自他の大切さに気づき、自尊感情を高めるために、体験を重視した取り組みが大切であると考える。今後は、さまざまなお状況を踏まえて、創意・工夫した取り組みが行えるよう推進する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○校内アンケートの結果において、次の各項目について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と肯定的に回答する生徒の割合を、次の数値を目標として取り組む。

・「学校のきまり、規則を守っている」	9.5%以上	(9.3%) → 9.4%
・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」	9.8%以上	(9.4%) → 9.6%
・「自分にはよいところがあると思う」	7.5%以上	(7.6%) → 7.9%
・「人が困っているときは、進んで助けている」	9.0%以上	(8.9%) → 9.4%

○校内アンケートを活用し、いじめ事案の発生に素早く対応し、「解決していないいじめ事案」をゼロにする。○暴力行為(体罰、暴言も含む)を起こさない学校づくりを進める。

○生徒への柔軟な対応のもとに、不登校生の割合を全体の5%以下をめざす。(11.0%) → 9.9%

○定期(年2回以上)の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を毎年高め、地域とともに歩む防災・減災計画に参画する。

○3年間の系統立てたキャリア教育を工夫・推進し生徒の適切な進路選択を指導する。「将来の夢や目標を持っている」「自分の将来のこと(進路)や生き方にについて考えている」について肯定的に回答する生徒の割合を7.5%以上にする。(7.2%) → 7.2%

○生徒一人ひとり、とりわけ支援を要する生徒の情報交換を密にし、インクルーシブ教育への教職員全体の共通認識と理解をめざし、個別化した指導を組織的に行い、進路や自立に結びつける。

○調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲の場となるよう学校図書館教育の充実をはかり、図書館活用率を前年度より向上させる。

○芸術や伝統文化等に複数回触れ、体験することによって生徒一人ひとりの豊かな感性を磨く。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○校内アンケートの結果において、次の各項目について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と肯定的に回答する生徒の割合を、次の数値を目標として取り組む。

・「自分で計画を立てて勉強をしている」	6.5%以上	(6.0%) → 6.8%
・「家庭学習(宿題、予習、復習)をしている」	7.5%以上	(6.4%) → 7.2%
・「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」	7.5%以上	(7.3%) → 7.9%
・「朝食を毎日たべている」	9.5%以上	(8.1%) → 8.5%
・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」	8.5%以上	(6.8%) → 7.1%
・「体力に自信がある」	6.0%以上	(5.1%) → 4.9%

○全国体力、運動能力、運動習慣調査での体力合計点において、全種目を全国平均点以上をめざす。

○すべての教科において、ICTを活用する時間を計画的に設定し「わかりやすい授業」をめざす。

○理数教育においては、課題発見・解決力、論理的思考能力の育成を図る。

○グローバル社会で通用するコミュニケーション能力の育成に努め、3年生で55%以上の生徒が漢検3級程度以上の英語力を有するように英語教育の充実を図る。(58.5%)

○健康的な生活習慣、食育活動(給食も含む)の推進とともに現代的課題(喫煙、飲酒、薬物乱用、感染症、生活習慣病、心の健康等)に対して、生徒一人ひとりが高い意識を持ち、健康の保持増進に努める。

【学びを支える教育環境の充実】

○ICTの活用に関する目標

- ・令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、100%にする。(83%) → 86%
- ・デジタル教材を活用した学習(家庭学習を含む)を、週2回以上実施する。

○教職員の働き方改革に関する目標

- ・年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を30%以上にする。
- ・ゆとりの日を月4回設定し、実施する。
- ・直近2~6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超える月数ゼロ)を満たす教職員の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を9.0%以上にする。 (9.4%) → 9.6%

○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 (11.0%) → 9.9%

○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

○校内アンケートにおいて、次の各項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を次のようにめざす。

- ・「学校のきまり、規則を守っている」 9.5%以上 (9.3%) → 9.4%
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」 9.8%以上 (9.4%) → 9.6%
- ・「自分にはよいところがあると思う」 7.0%以上 (7.6%) → 7.9%
- ・「人が困っているときは、進んで助けている」 8.5%以上 (8.9%) → 9.4%

○校内調査を活用し、いじめ事案の発生に素早く対応し、「解決していない『いじめ事案』」をゼロにする。

○暴力行為（体罰、暴言も含む）の発生をゼロにする。

○生徒への柔軟な対応のもとに、不登校生の割合を全体の10%以下をめざす。 (11.0%) → 9.9%

○定期（年2回以上）の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を高め、防災・減災計画に参画する。

○3年間の系統立てたキャリア教育を工夫・推進し、生徒の適切な進路選択を指導し、校内アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」「自分の将来のこと（進路）や生き方について考えている」と肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。

○生徒一人ひとり、とりわけ支援を要する生徒の情報交換を密にし、インクルーシブ教育への教職員全体の共通認識と理解を充実させ、個に応じた指導を組織的に行い、進路や自立に結びつける。

○学校図書館教育の充実をはかり、図書館活用率を前年度より向上させる。

○「特別の教科・道徳」の授業と評価の充実をめざす。

○学校生活を意欲的に過ごす生徒を増やす。積極的に挨拶を行う生徒の割合を90%以上にする。 (7.7%) → 8.7%

○芸術や伝統文化等に複数回触れ、体験することによって生徒一人ひとりの豊かな感性を磨く。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。(4.1%) → 5.0%

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 (2年 国語: 0.97 数学: 0.99 3年 国語: 1.01 数学: 1.02) 昨年度

○令和6年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 (2年: 25.9% 3年: 17.9%) 昨年度

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を55%以上にする。(58.5%)

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を30%以上にする。 (4.8. 8%)

学校園の年度目標

○校内アンケートの結果において、次の各項目について、肯定的な回答する生徒の割合を次のようにめざす。

- ・「自分で計画を立てて勉強をしている」 6.5%以上 (6.0%) → 6.8%
- ・「家庭学習（宿題、予習、復習）をしている」 7.0%以上 (6.4%) → 7.2%
- ・「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」 7.5%以上 (7.3%) → 7.9%
- ・「朝食を毎日たべている」 8.5%以上 (8.1%) → 8.5%
- ・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」 7.0%以上 (6.8%) → 7.1%
- ・「体力に自信がある」 6.0%以上 (5.1%) → 4.9%

○20mシャトルランにおいて、各自記録を向上させる。

○情報環境の整備に努め、一人一台端末の積極的活用を図り、生徒の学習意欲向上に繋げる。

○理数教育においては、課題発見・解決力、論理的思考能力の育成を図る。

○卒業時に50%以上の生徒が英検3級程度以上の英語力を有するように小中連携した英語教育を進める。 (58. 5%)

○生徒一人ひとりが健康と食育に対し高い意識を持ち、健康の保持増進について考える力の育成をはかる。

【学びを支える教育環境の充実】

【ICT】○授業日において、生徒の8割以上が学習h小端末を活用した日数が年間授業日の75%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)

○教員の生徒のICT活用を指導する能力に対して、「指導できる」と肯定的に回答する割合を80%以上にする。

【働き方改革】○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教員の割合を75%以上にする。

学校園の年度目標

【ICT】○年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、75%以上にする。 (8.3%) → 8.6%

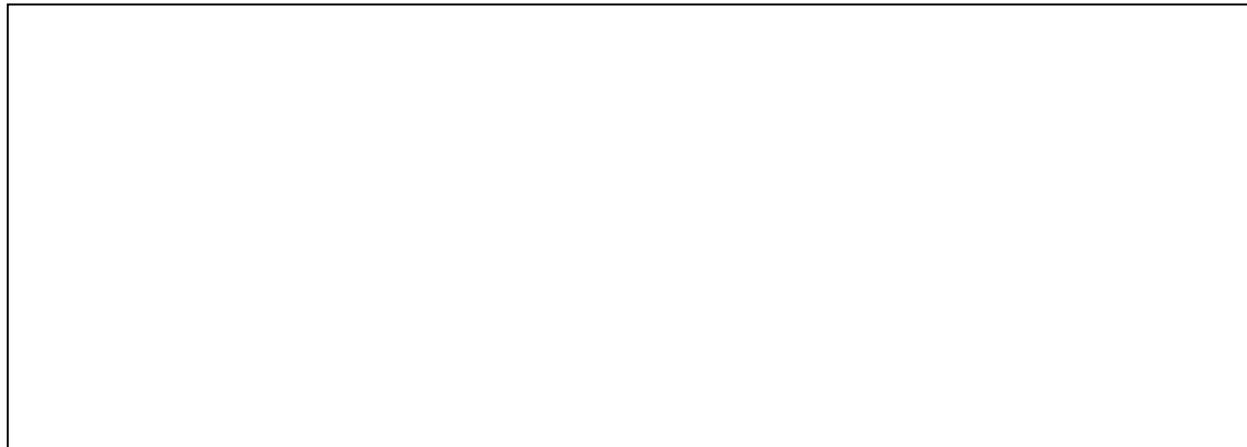
○デジタル教材を活用した学習（家庭学習を含む）を、週1回以上実施する。

【働き方改革】○年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。

○ゆとりの日を月1回設定し、実施する。

○「直近2～6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超える月数ゼロ」を満たす教職員の割合を60%以上にする。
8.4%

3 本年度の自己評価結果の総括



大阪市立東我孫子中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況												
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。 (94%) → 96%</p> <p>○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 (11.0%) → 9.9%</p> <p>○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○校内アンケートにおける次の各項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を次のようにめざす。</p> <table> <tr> <td>・「学校のきまり、規則を守っている」</td> <td>95%以上</td> <td>(93%) → 94%</td> </tr> <tr> <td>・「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う」</td> <td>98%以上</td> <td>(94%) → 96%</td> </tr> <tr> <td>・「自分にはよいところがあると思う」</td> <td>70%以上</td> <td>(76%) → 79%</td> </tr> <tr> <td>・「人が困っているときは、進んで助けている」</td> <td>85%以上</td> <td>(89%) → 94%</td> </tr> </table> <p>○校内調査を活用し、いじめ事案の発生に素早く対応し、「解決していない『いじめ事案』」をゼロにする。</p> <p>○暴力行為（体罰、暴言も含む）の発生をゼロにする。 (6件) → 8件</p> <p>○生徒への柔軟な対応のもとに、不登校生徒の割合を全体の10%以下をめざす。 (11.0%) → 9.9%</p> <p>○定期（年2回以上）の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を高め、防災・減災計画に参画する。</p> <p>○3年間の系統立てたキャリア教育を工夫・推進し、生徒の適切な進路選択を指導し、校内アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」「自分の将来のこと（進路）や生き方について考えている」と肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 (72%) → 72%</p> <p>○生徒一人ひとり、とりわけ支援を要する生徒の情報交換を密にし、インクルーシブ教育への教職員全体の共通認識と理解を充実させ、個に応じた指導を組織的に行い、進路や自立に結びつける。</p> <p>○調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲の場となるよう学校図書館教育の充実をはかり、図書館活用率を前年度より向上させる。</p> <p>○「特別の教科・道徳」の授業と評価の充実をめざす。</p> <p>○学校生活を意欲的に過ごす生徒を増やす。積極的に挨拶を行う生徒の割合を80%以上にする。 (77%) → 87%</p> <p>○芸術や伝統文化等に複数回触れ、体験することによって生徒一人ひとりの豊かな感性を磨く</p>	・「学校のきまり、規則を守っている」	95%以上	(93%) → 94%	・「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う」	98%以上	(94%) → 96%	・「自分にはよいところがあると思う」	70%以上	(76%) → 79%	・「人が困っているときは、進んで助けている」	85%以上	(89%) → 94%	B
・「学校のきまり、規則を守っている」	95%以上	(93%) → 94%											
・「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う」	98%以上	(94%) → 96%											
・「自分にはよいところがあると思う」	70%以上	(76%) → 79%											
・「人が困っているときは、進んで助けている」	85%以上	(89%) → 94%											

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 日々の生徒観察や相談活動を基本に、定例の教育相談（2回）、学期末懇談（2回）、生徒アンケート（3回）を実施する。さらに、気になる事案が発生した際は、教育相談、家庭訪問を積極的に行い、教職員どうしの情報共有を図ることで改善に向けて取り組む。	B
[指標] 年度末の校内調査における「いじめ」の件数を前年度より減少させる。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 日々の生徒観察を欠かすことなく、気になる状況が見られるときは、保護者との連携、教職員どうしの情報共有を図ることで、早期対応を心がける。	B
[指標] 年度末の校内調査における「不登校」の生徒の割合を、前年度より減少させる。	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 学校・学年で協力して取り組む行事や部活動の充実を図り、学校生活を生き生きと意欲的に過ごす生徒を増やす。	B
[指標] 年度末の生徒アンケートにおける「学校に行くのが楽しい」「文化祭や体育大会などの学校行事や部活動に熱心に取り組んでいる」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増やす。	

<p>取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校安心ルール」を基本とした指導のもと、身なり決まり研修会を実施し、全教職員の共通理解を図り、決まりを守る姿勢を確立させる。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「学校の決まり、規則を守っている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「障がい」者問題、国際理解教育、社会問題など、人権にかかわる取り組みを各学年で計画的に行い、人権意識を高める。特に、外部講師を招くことで生徒の体験的理を深める。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「学校では、人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>平和学習や人権学習を通じて、自他ともに命を大切にする心を育成する。特に、外部講師を招くことで生徒の体験的理を深める。また、「平和新聞」の作成を通じて、命の尊さについて学ぶ。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「学校では、命の大切さや社会のルールについて学ぶことが多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>各学年のキャリア教育の指針に従い、進路学習、職業講話、職業体験を実施する。将来を見据えた職業観や進路に対する意識を成長させる。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「自分には良いところがある」「自分の将来のことや生き方について考えている。将来の夢や目標を持っている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>取組内容⑧【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>年2回以上の避難・消火訓練や防災訓練を実施し、防災への意識を高める。地域とともに、防災・減災訓練計画に取り組む。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「事件や事故、災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>取組内容⑨【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>芸術や伝統文化に触れるような体験学習を、各学年それぞれ2回以上実施する。</p> <p>[指標] 体験後の校内アンケートにおける「いろいろな国や地域の文化や伝統などを学ぶことは大切である」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>①1学期、2学期の教育相談、学期末懇談、学期ごとのアンケート等を予定通り実施した。いじめの件数は1となっており、前年度の3件を下回っている。</p> <p>②各学年で家庭との連携をとり、対応している。今年度の不登校生徒は41人であり、前年度の53人を下回っている。</p> <p>③「学校に行くのが楽しい」「文化祭や体育大会などの学校行事や部活動に熱心に取り組んでいる」R5年度94%と同じくR6年度94%で、高い水準を保てている。</p> <p>④毎月、全学年が生活指導点検、再点検を全学年行っている。「学校のきまり・規則を守っている」のアンケート結果は、肯定的回答が96%となり、前年の93%を上回っている。</p> <p>⑤障がい者問題、助産師による性教育など、各学年人権に関わる取り組みをおこない、人権意識を高めた。また外部講師を招き、講話を聞いた。「学校では、人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合は94%であった。</p> <p>⑥各学年平和学習に取り組み、文化祭では平和新聞を作成して展示発表を行った。1年生は外部講師を招き平和について、障がい者問題について学習した。校内アンケートにおける「学校では、命の大切さや社会のルールについて学ぶことが多い」の項目に対し、肯定的な割合が前年度より2%向上した。</p> <p>⑦今年度は2年の職業体験が実施でき、他学年もそれぞれキャリア・進路学習を進めている。2学期末の生徒アンケートでは、「将来のことや生き方について考える」の項目は前年度と変化がなかったが、「自分には良いところがある」の項目について肯定的な割合が前年度よりそれぞれ3ポイント向上した。</p> <p>⑧「事件や事故、災害が発生した時、どうしたらよいかわかっている。」の項目が前年度(68%)から+8ポイントで76%であった。年2回の避難訓練(本年度は1回実施)の他にも1年生で防災学習を実施するなど、充実した内容を取り組めた。</p> <p>⑨10月に全学年での芸術鑑賞を行った。また1年は1月に上方落語ふれあう会を、1月に2年は6月に校外学習で奈良公園周辺の文化財を巡り、3年は9月に茶道講習会を実施した。</p>	

次年度への改善点	
①はじめの件数は「1」だが「0」ないので、教職員でさらなる連携を図る。	
また、来年度以降も1学期、2学期の教育相談、学期末懇談、学期ごとのアンケート等を実施する。	
②不登校の件数は「41人」で前年度よりは減少しているが、さらに学校へ来る生徒が増えるように、各学年で家庭との連携をとる。また関係機関との連携も図る。	
③年度末の生徒アンケートでは、前年度同様に高い水準を保てている。次年度も高い水準が保てよう、どの行事にも力を入れ、子どもたちが夢中になれるような学校を目指す。	
④毎月、各学年で生活指導点検、再点検を行う。また、点検以外の普段の生活から、自らきまりや規則を守る習慣作りを身につけさせていく。	
⑤次年度は、各学年取り組み内容を工夫して人権教育を行う必要がある。	
⑥次年度も計画的に取り組んでいきたい。外部講師の日程調整が難しいため、早い段階で日程を決める必要がある。	
⑦来年度の2年の職業体験の取り組みを今後も進めていく。また将来を見据えた職業観や進路に対する意識を成長させる取り組みを今後も行っていきたい。	
⑧来年度も引き続き、積極的に防災訓練に取り組んでいくとともに、今後も災害について身近に考える機会をできるだけ多くとっていきたい。	
⑨来年度も予定通りに鑑賞行事が行えるよう、企画・準備を進めていく。	

年度目標	達成状況												
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。(41%) → 50%</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。(2年 国語: 0.97 数学: 0.99 3年 国語: 1.01 数学: 1.02)</p> <p>○令和6年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。(2年: 25.9% 3年: 17.9%)</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を5%以上にする。 58.5%</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を30%以上にする。(48.8%)</p>													
<p>学校園の年度目標</p> <p>○校内アンケートの結果において、次の各項目について、肯定的な回答する生徒の割合を次のようにめざす。</p> <table> <tbody> <tr> <td>・「自分で計画を立てて勉強をしている」</td> <td>65%以上 (60%) → 68%</td> </tr> <tr> <td>・「家庭学習（宿題、予習、復習）をしている」</td> <td>70%以上 (64%) → 72%</td> </tr> <tr> <td>・「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」</td> <td>75%以上 (73%) → 79%</td> </tr> <tr> <td>・「朝食を毎日たべている」</td> <td>85%以上 (81%) → 85%</td> </tr> <tr> <td>・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」</td> <td>70%以上 (68%) → 71%</td> </tr> <tr> <td>・「体力に自信がある」</td> <td>60%以上 (51%) → 49%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○20mシャトルランにおいて、各自記録を向上させる。</p> <p>○情報環境の整備に努め、一人一台端末の積極的活用を図り、生徒の学習意欲向上に繋げる。</p> <p>○理数教育においては、課題発見・解決力、論理的思考能力の育成を図る。</p> <p>○卒業時に50%以上の生徒が英検3級程度以上の英語力を有するように小中連携した英語教育を進める。(58.5%)</p> <p>○生徒一人ひとりが健康と食育に対し高い意識を持ち、健康の保持増進について考える力の育成をはかる。</p>	・「自分で計画を立てて勉強をしている」	65%以上 (60%) → 68%	・「家庭学習（宿題、予習、復習）をしている」	70%以上 (64%) → 72%	・「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」	75%以上 (73%) → 79%	・「朝食を毎日たべている」	85%以上 (81%) → 85%	・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」	70%以上 (68%) → 71%	・「体力に自信がある」	60%以上 (51%) → 49%	B
・「自分で計画を立てて勉強をしている」	65%以上 (60%) → 68%												
・「家庭学習（宿題、予習、復習）をしている」	70%以上 (64%) → 72%												
・「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」	75%以上 (73%) → 79%												
・「朝食を毎日たべている」	85%以上 (81%) → 85%												
・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」	70%以上 (68%) → 71%												
・「体力に自信がある」	60%以上 (51%) → 49%												

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>I C Tの積極的な活用、習熟度別授業の効果的活用を通じて、よりわかりやすい授業をめざすとともに、生徒が主体的に学ぶ力を育成する。</p> <p>[指標] 1) 年度末生徒アンケートにおける「授業の内容がよくわかる。授業は楽しい」で肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。</p> <p>2) 令和6年度のチャレンジテストのすべての教科において、同一母集団を比較し、第iv区分（下位層25%）の生徒の割合を前年度より減少させる。</p>	B

<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>すべての教科において「主体的、対話的で深い学び」をめざし、それぞれの授業の中で思考させたり、話し合いをさせたり、発表させたりする場面を効果的に取り入れる。</p>	C
<p>[指標] 令和6年度の全国学力・学習状況調査の思考力・判断力・表現力等に関する項目の平均正答率を、前年度より5ポイント増加させる。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業の予習・復習、定期テスト対策・学力調査対策等に活用できる学習教材を作成、提供し、自主学習や家庭学習の習慣化を定着させる。また、放課後の補充学習、自主学習教室での学習支援を行う。</p>	C
<p>[指標] 1) 定期テストで、5科平均正答率40%以上の生徒の割合を、75%以上をめざす。 2) 年度末の生徒アンケートにおける「自分で計画を立てて勉強している」「家庭学習（宿題、予習、復習）をしている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>全学年の理科の授業において、生徒実験・観察や演示実験や標本の観察等、実物に触れる授業を年間50回実施する。</p>	B
<p>[指標] 校内の生徒アンケートにおいて、「授業の内容がよくわかる。授業が楽しい」の項目に対し、肯定的に回答する生徒の割合を、70%以上をめざす。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>C-NE TとのTT授業や授業の中でのコミュニケーション活動を通じ、英語力の向上に取り組む。また、NHK基礎英語をベースにした英語教材「基礎英語LEAD」を活用した自主教材を作成し、定期的に取り入れる。</p>	A
<p>[指標] 1) 令和6年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、55%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上に向けた持久力維持向上のために、ランニング・ダッシュの基礎的トレーニングに毎時間取り組む。</p>	B
<p>[指標] 春・冬に20mシャトルランのテストを実施し、その結果を各学年内で比較し、3年生は35%以上、1・2年生男子は70%以上、女子は50%以上の生徒の記録を更新させる。</p>	
<p>5取組内容⑦【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>生徒の体力・運動能力向上に向けて、毎授業で基礎的トレーニングを10分～15分間取り組む。</p>	B
<p>[指標] 令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に50mと立ち幅とびの記録を、前年度より5ポイント増加させる。</p>	
<p>取組内容⑧【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>保健委員会の活動を通じて、教室の環境整備や校内の美化活動に取り組む。とくに、健康に関する劇に取り組み、校外の講習会に参加し、健康や食に関する関心を高める。</p>	A
<p>[指標] 年度末の生徒アンケートにおける「清掃活動を majimeに取り組んでいる」「朝食を毎日食べている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。</p>	
<p>取組内容⑨【基本的な方向4 若手教員の指導力向上と校内研修の支援】</p> <p>教職員の資質、指導力の向上を目指し、校内研修会を充実させるとともに、全教員による校内研究授業を実施する。</p>	B
<p>[指標] ICT機器活用研修を含め、年間6回の校内研修会を実施する。また、全教員による校内研究授業を2学期末までに一人1回以上実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①ICTの活用や分割授業などを行い、わかりやすい授業を目指している。2学期末のアンケートでは「授業がよくわかる。楽しい」の項目の肯定的な割合は65から71へと向上した。チャレンジテスト(3年)については数学、理科、英語の下位層25%の生徒の割合が前年度より增加了。
- ②全国学テの「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率は国数は昨年より9.4ポイント減少した。
- ③2学期期末テストでの5科平均正答率40%以上の生徒は、1年65%、2年71%、3年67%であった。全学年目標を下回っているので、さらなる学習支援を行っていく必要がある。また2学期末のアンケートでの「計画を立てて学習している」が57から63、「家庭学習している」が60から65となり、肯定的な割合が增加している。
- ④各学年、生徒実験及び演示実験を効果的に取り入れることができている。今後も計画的に実験を取り入れ、目標を達成したい。
- ⑤C-NETと行う授業ではコミュニケーション活動を2週に1回行うことができた。英語力調査GTECの結果でCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が74%と指標の55%を上回った。
- ⑥指標であるシャトルランにおいては、3年生は50%の生徒が春の結果を上回る記録を達成した。1、2年生については今後実施予定である。また全国体力・運動能力、運動習慣等調査においても、大阪市の平均値を上回る結果となった。
- ⑦全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、指標である立ち幅跳びにおいては、大阪市の平均値を3ポイント下回る結果になつたが、体力の合計点においては、男女とも大阪市の平均値を上回る結果となつた。
- ⑧「清掃活動をはじめに取り組んでいる」の項目が前年度(85%)から+2ポイントで87%であった。「朝食を毎日食べている」の項目が+4ポイントで82%となつた。校内では、給食の残食ボードに毎日記録し、残食に関して意識できるように取り組むことができた。
- ⑨1月末までに7回の校内研修会を行つた。(身なり決まり研修会、フラワー研修会、エピペン研修会、AED研修会、若手研修会、SETT研修会、人権教育実践交流会)。また、学力向上研修や、全教職員による研究授業も行つた。

次年度への改善点

- ①各学年・各教科でICTを活用した教育活動の推進をさらに図っていく。また今年度は朝学習をデジタルドリルで行つたが、来年度に向けて具体的な内容をさらに検討していきたい。
- ②各学年、話し合いやグループワーク、ペアワークなどを効果的に取り入れて、生徒のさらなる学力向上を図っていく。
- ③定期テストにおける指標を全学年では達成できなかつた。生徒の学力向上に向けてさらなる授業改善と、生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな取り組みを進めていかなければならない。
- ④実験を計画的に取り入れると同時に、演習の時間等を確保し確かな実力を身につけるよう努める。
- ⑤C-NETやICT教材等を用いた授業、自主学習支援を継続的に行つとともに、生徒の英語力向上に対する支援を進めていく。
- ⑥著しく持久力が向上する中学生の時期に、今後も継続して持久力向上のトレーニングをすることで、よりよい生活を行うことにつなげていきたい。
- ⑦全国体力・運動能力調査で体力面では、大阪市の平均値を上回つたが、生活習慣においては下回る項目が多かつたので、次年度以降はその点についても取り組みを考えていきたい。
- ⑧保健委員会などで清掃や健康に関する取り組みを行い、給食などを通じて「食」について意識できるように、様々な角度から食育活動に取り組んでいきたい。
- ⑨今年度もさまざまな研修会を実施できた。今後は研究授業について相互参観を充実させ、研究協議や意見交換の機会を増やすなど、さらに個々の授業の研鑽に努めていきたい。

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICT】○授業目において、生徒の8割以上が学習h小端末を活用した日数が年間授業日の75%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)</p> <p>○教員の生徒のICT活用を指導する能力に対して、「指導できる」と肯定的に回答する割合を80%以上にする。</p> <p>【働き方改革】○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教員の割合を75%以上にする。</p>	B
<p>学校園の年度目標</p> <p>【ICT】○年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、75%以上にする。(83%) → 86%</p> <p>○デジタル教材を活用した学習(家庭学習を含む)を、週1回以上実施する。</p> <p>【働き方改革】○年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。</p> <p>○ゆとりの日を月1回設定し、実施する。</p> <p>○「直近2~6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超える月数ゼロ」を満たす教職員の割合を60%以上にする。 84%</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 一人一台の端末の環境を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを実施する。		C
[指標] 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、75%以上にする。		
取組内容②【基本的な方向6 教育DXの推進】 一人一台の学習環境を生かすため、普通教室・特別教室に大型モニターかプロジェクタの固定設置を推進する		B
[指標] 年度末における普通教室・特別教室の大型モニター・プロジェクタの固定設置率を70%以上にする。		
取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 風通しの良い職場づくりに努め、教職員一人一人がそれぞれの特性を生かした教育活動を実施する。		A
[指標] 「直近2～6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超える月数ゼロ」を満たす教職員の割合を60%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>①学習者端末アンケートを実施したところ、全体の65.1%が「よく活用している」「活用している」という結果となった。朝学でデジタルドリルの実施、心の天気の入力も進め、活用率が上がることを目指したが、目標に達することができなかった。</p> <p>②教室にプロジェクタを固定設置ができ、普通教室に関しては、固定設置率100%を達成した。特別教室について、固定設置を進めたい。</p> <p>③月1回ゆとりの日を、行事予定に入れてもらい、ゆとりの持てる時間を確保している。その成果もあって、時間外労働時間月80時間に見たな教職員の割合が84%で、目標値を超えている。</p>		
次年度への改善点		
<p>①デジタルドリルを朝学で使用し、心の天気の入力を習慣化する工夫が必要である。インターネットに接続ができない場合の対処法も、多くの教員に認知してもらい、対応する必要がある。</p> <p>②普通教室のプロジェクト・大型モニターの設置が完了した。しかし、特別教室においては、まだ未整備の部分がある。その他、スクリーンやHDMIケーブルの破損も増えてきており、維持管理も課題となる。</p> <p>③時間外労働時間月80時間を超える教職員が、固定化されているので、来年度は働き改革の取り組みをさらに進め、改善されるように働きかける必要がある。</p>		